

共同礼拝

2023年6月25日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 高橋和人

前 奏

招 詞 詩編100編1, 2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

ヨエル書 3章1～5節 (旧1425)

使徒言行録 2章14～24節(新215)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 194

説 教 「最初の説教」 牧師 姜 徑米

祈 禱

讃 美 歌 536

献 金

頌 栄 539

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

6月の祈り

父なる神、御子イエス・キリスト、聖霊なる三つにして一つなる神のみ救いの確かさと恵み深さを覚えて。

御言葉によって創造主、救い主、祈りと慰めの主への信仰を確かなものとする事ができるように。

礼拝に集うことが困難な兄弟姉妹に主のみ手が伸べられ、信仰の歩みが守られるように。

コロナ禍からの回復が導かれるように。

戦火、紛争、圧政の下にある人々に平和と平安がもたらされるように。

今日の祈り

礼拝が主の御手によって力づけられるように。御言葉に忠実に福音が語られるように。説教者が聖霊によって支えられ、主の御心が現わされるように。

愛する人を主の御手に委ねた家族が主が慰めを与え、力づけてくださるように。

体調を崩している兄弟姉妹が守られるように。

紛争の地に主にある平和がもたらされるように。

「最初の説教」 姜 徑米

使徒言行録2章14～24節

ここは、ペンテコステの日に、聖霊を受けたペトロと弟子たちが人々に語った説教です。聖霊が降ったこの日に教会が誕生しましたから、これは教会が人々に最初に語った言葉です。その中に、主イエス・キリストの十字架の死のことが語られています。

教会は、聖霊の働きによって歩み出し、最初の日から、主イエス・キリストの十字架の苦しみと死を、人々に語り伝えました。キリストの十字架は、教会にとって、宣べ伝えるべき中心であり、なくてはな

らない事です。ペトロが語った最初の説教は、主イエスの十字架の死と復活についてです。教会は、主の十字架と復活を宣べ伝えることによって歩み出したのです。

ペトロは最初の説教で、主イエス・キリストの十字架の死を語りました。彼がこのように語ることができたのは、聖霊の働きによることでした。

14節には「すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた」とあります。この説教はペトロ個人の言葉ではありません。他の十一人と共に、十二人の使徒としての、主イエス・キリストの教会としての言葉です。

聖霊が彼らに降り、聖霊に満たされることによって、主イエスを信じる者の群れである教会は、このような言葉を与えられたのです。主イエス・キリストの十字架において起こったことは何だったのか、そこに、神様のどのような救いのご計画があったのか、それは自分たちにとってどのような恵みの出来事だったのか、それを彼らは、教会は、聖霊の働きによって知ることができたのです。

語ることができるためには、そのことを確信していなければなりません。主イエスの十字架の死が、自分の罪のためであり、自分こそ主イエスを十字架につけて殺した者であるということ、しかしその自分の罪が全て神様のご計画の中に置かれており、そこに神様の赦しの恵み、救いが実現していること、それを知らされ、信じる事ができる時に、私たちは語ることができるようになるのです。そのように私たちが主イエスによる救いを知り、信じる事ができるのは、聖霊の働きによることです。